

differential calculus in characteristic  $p > 0$   
and de Rham-Witt complex.

Paris Sud Michel Raynaud

(諏訪紀幸記)

本稿は Raynaud 教授の 9 月 20 日 東京大学での講演と  
10 月 6 日 京都大学数理解析研究所での講演をもとに  
まとめたものです。

1. historical notes

$X$  を compact 複素多様体,  $\Omega_X^\bullet$  を  $X$  の de Rham complex とする.

このとき, 重要な spectral sequence

$$E_1^i = H^i(X, \Omega_X^\bullet) \Rightarrow H^*(X, \Omega_X^\bullet) \simeq H^*(X, \mathbb{C})$$

が存在する.  $X$  が Kähler なる上, spectral sequence は  $E_1$  で退化し,

Hodge number  $h^{i,j} = \dim_{\mathbb{C}} H^i(X, \Omega_X^j)$  は  $X$  の重要な不変量である. 同様の

議論を代数多様体に対して試みるのは興味深いことであるが,

de Rham cohomology  $H_{\text{DR}}^*(X/k) = H^*(X, \Omega_{X/k}^\bullet)$  は標数 0 のときは

求められる良い性質を持っているのに比べて, 標数  $p > 0$  のときはもはや

良い性質を持たない (例えば, 良い Betti number を与えない).

この方面での最初の試みは Serre の Witt vector cohomology

であろう (Serre [11] '58):  $k$  を標数  $p > 0$  の algebraically closed field,  
 $X$  を  $k$  の上に定義された代数多様体, また,  $W = W(k)$  を  $k$  の上の Witt vector  
 の環とする.  $X$  の affine open  $U: A = \mathbb{P}(U, \mathcal{O}_X)$  の上の Witt vector の環  
 $W(A)$  を対応させることにより,  $X$  の上の formal sheaf  $W(X)$  が定義される.  
 このとき,  $H^i(X, W(X))$  は  $W$  加群. Serre は  $H^i(X, W(X))$  が  $X$  の Hodge number  
 $h^{0,i}$  を与えるものであると考えたが, 実際,  $X$  が  $k$  の上に smooth complete で  
 $W$  の上の lifting  $\pi$  を持つとき,  $\dim_k H^i(X, W(X)) \otimes_w K$ ,  $K$  は  $W$  の分数体, は  
 $\pi$  の "Hodge number  $h^{0,i}$ " と一致する. また,  $X$  が  $k$  の上に smooth complete  
 なる,  $H^i(X, W(X))$  は free  $W$ -module of finite type となることを示した.  
 さらに, Serre は  $X$  が  $k$  の上に smooth complete なる一般に  $H^i(X, W(X))$   
 が有限型  $W$  加群となることを予想したが, ほとんどなく反例を見出した.  
 (Serre [12])

remark 1.1.  $X$  が  $k$  の上に smooth complete のとき,  $P = \text{Pic}_{X/k}$  を  $X$  の  
 Picard scheme とすれば,  $\{H^i(X, W(X)), F, V\}$  は formal completion  
 $(P^0)_{\text{red}}$  の Cartier module に対応する.

二から十年程進展が見られなかったが, Monsky と Washnitzer は  
 differential の標数  $p$  から標数  $0$  への lifting についての系統的な  
 研究を行い, formal cohomology を定義した (Monsky-Washnitzer  
 [7] '68-'70). また, Grothendieck は Monsky-Washnitzer の仕事に  
 着目し, scheme の infinitesimal site を定義し, 標数  $0$  のとき,  
 infinitesimal cohomology が smooth variety に対して de Rham

cohomology を与えることを示した。しかし、標数  $p > 0$  の場合、infinitesimal site では不十分であることから、scheme の crystalline site を定義し、crystalline cohomology が良い  $p$ -adic cohomology を与えるであろうと述べた (Grothendieck [5])。実際、Berthelot は crystalline cohomology が良い  $p$ -adic cohomology であることを示した：例えば、 $k$  を標数  $p > 0$  の perfect field,  $X$  を smooth proper  $k$ -scheme とすれば、 $H^*(X/W)_{\text{cris}}$  は有限型  $W$  加群；また、 $b_i = \dim_k H^i(X/W)_{\text{cris}} \otimes_W K$  は Weil-Deligne の  $l$ -adic Betti number と一致する；また、 $X$  が  $W$  の上への lifting  $\tilde{X}$  を持つとき、 $H^*(X/W)_{\text{cris}} \simeq H_{\text{DR}}^*(\tilde{X}/W)$ , etc. (Berthelot [2])。

しかし、Hodge number を定義するためには、spectral sequence から定義される filtration が必要であるが、Grothendieck-Berthelot の crystalline cohomology に explicit に complex で定義したものはなかった。Bloch は標数と次元の制限はあるにしても、 $K$ -theory を使って crystalline cohomology を与える complex を構成した (Bloch [4])

remark 1.2 加藤和世は標数と次元の制限が不要であることを述べている。

さらに、Deligne と Illusie は  $K$ -theory を使わずに、一般の scheme に対して crystalline cohomology を与える complex として de Rham-Witt complex を定義した (Illusie [6])。de Rham-Witt complex は Serre の Witt vector cohomology と Grothendieck-Berthelot の crystalline

cohomology との自然な結び付きをも与えている

remark 1.3  $S$  を scheme,  $X$  を  $S$ -scheme とする.  $X$  の  $S$  に関する infinitesimal site  $\text{Inf}(X/S)$  は次のように定義される.

(1) object:  $S$ -morphism  $U \rightarrow T$ ,  $U$  は  $X$  の Zariski open,  $U \rightarrow T$  は  $\mathcal{O}_T$  の nil-Ideal  $\mathcal{J}$  により定義される closed immersion;

(2) morphism: commutative diagram

$$\begin{array}{ccc} U & \longrightarrow & T \\ \downarrow & & \downarrow \\ U' & \longrightarrow & T' \end{array}$$

$U \rightarrow U'$  は inclusion,  $T \rightarrow T'$  は  $S$ -morphism;

(3) covering:  $\{(U_i \rightarrow T_i) \rightarrow (U \rightarrow T)\}_i$ , 各  $T_i \rightarrow T$  は open immersion で  $\bigcup T_i = T$ .

remark 1.4 Ogus は singular variety に対し  $\mathbb{Z}$  を infinitesimal cohomology かつ de Rham cohomology を与えることを示している (Ogus [10]).

remark 1.5  $(S, \mathcal{J}, \gamma)$  を PD-scheme,  $X$  を  $S$ -scheme とし,  $\gamma$  は  $X$  に拡張できると仮定する.  $X$  の  $S$  に関する crystalline site  $\text{Cris}(X/S)$  は次のように定義される.

(1) object:  $(U \rightarrow T, \delta)$ ,  $U$  は  $X$  の Zariski open,  $U \rightarrow T$  は  $\mathcal{O}_T$  の nil-Ideal  $\mathcal{J}$  により定義される closed  $S$ -immersion,  $\delta$  は  $\gamma$  と compatible な  $\mathcal{J}$  上の PD-structure;

(2) morphism : commutative diagram

$$\begin{array}{ccc} U & \longrightarrow & T \\ \downarrow & & \downarrow \\ U' & \longrightarrow & T' \end{array}$$

$U \rightarrow U'$  は inclusion,  $(T, \mathcal{J}, \delta) \rightarrow (T', \mathcal{J}', \delta')$  は PD-structure  $\gamma$  compatible な  $S$ -morphism ;

(3) covering :  $\{(U_i \rightarrow T_i, \delta_i) \rightarrow (U \rightarrow T, \delta)\}_i$ , 各  $T_i \rightarrow T$  は open immersion として  $\bigcup T_i = T$ .

remark 1.6.  $k$  を標数  $p > 0$  の体,  $W = W(k)$  を  $k$  の上の Witt vector の環とする. このとき,  $\gamma_i(a) = a^i/i!$  により,  $pW$  の上の divided powers  $\gamma = (\gamma_i)_{i \geq 0}$  が定義される. また,  $p^n W$  は  $pW$  の PD-subideal なので,  $W_n = W/p^n W$  の上に PD-structure が  $\gamma$  から誘導される. 以下,  $W, W_n$  を PD-structure  $\gamma$  を持つ PD-ring と考える. さらに,  $S = \text{Spec } W$ , または,  $\text{Spec } W_n$ ,  $X$  を  $S$ -scheme とすれば,  $\gamma$  は  $X$  に拡張できる.

以下, de Rham-Witt complex の構成と基本的な性質について述べる. また, crystalline cohomology については Berthelot [2], Berthelot-Ogus [3] を, また, de Rham-Witt complex については Illusie [6] を見るといい.

## 2 de Rham-Witt complexの構成

$k$  を標数  $p > 0$  の perfect field,  $W = W(k)$  を  $k$  の上の Witt vector の環,

$W_n = W/p^n W$  とする.

定理 2.1 (Poincaré lemma)  $S = \text{Spec } W_n$ ,  $X, Y$  を smooth affine  $S$ -scheme,

$f, g: X \rightarrow Y$  を  $S$ -morphism とし,  $f^*, g^*: \Omega_{Y/S} \rightarrow \Omega_{X/S}$  をそれぞれ  $f, g$  から誘導される de Rham complex の準同型 とする. このとき,  $f = g \pmod{p}$  なる各  $i$  に対して  $H^i(f^*) = H^i(g^*): H^i(\Omega_{Y/S}) \rightarrow H^i(\Omega_{X/S})$  となる. 特に  $f \neq g \pmod{p}$  で同型なる  $H^i(f^*)$  は同型.

実際,  $Y$  は  $S$  の上に smooth なるので,  $Y$  の各点  $y$  に対して  $y$  の open neighbourhood  $U$ , 及び 整数  $r \geq 0$ , 及び étale  $S$ -morphism  $U \rightarrow S[T_1, \dots, T_r]$  が存在する. 局所性から, étale  $S$ -morphism  $\varphi: Y \rightarrow Z = S[T_1, \dots, T_r]$  が存在する と仮定しよう. このとき,  $A, B, C$  をそれぞれ  $X, Y, Z$  の affine ring とし, また,  $f, g, \varphi$  に対応する環の準同型をまた  $f, g, \varphi$  で表わす.  $t_i = \varphi(T_i)$  とおけば, 仮定から,  $g(t_i) = f(t_i) + p a_i$ ,  $a_i$  は  $A$  の元, と書ける. 二で,  $A\langle T \rangle$  を  $T$  を不定元 とする polynomial  $A$ -algebra with divided powers とすれば, 対応  $T_i \rightarrow f(t_i) + T a_i$  により,  $W_n$ -代数の準同型  $\alpha: C \rightarrow A\langle T \rangle$  が, また, 対応  $T^{[n]} \rightarrow 0$  (あるいは,  $T^{[n]} \rightarrow p^{[n]} 1_A$ ) ( $n > 0$ ) により  $A$ -代数の準同型  $u: A\langle T \rangle \rightarrow A$  (あるいは,  $u: A\langle T \rangle \rightarrow A$ ) が定義される. このとき,  $u \cdot \alpha = f \cdot \varphi$ ,  $u \cdot \alpha = g \cdot \varphi$ . 二で,  $(T^{[l]})^m = \frac{(lm)!}{(l!)^m} T^{[lm]}$  ( $l > 0$ ),  $p^n A = 0$  なるので,  $A\langle T \rangle$  の augmentation ideal  $\bigoplus_{l > 0} A \cdot T^{[l]}$  は nilideal となるから,  $B$  は  $C$  の上に étale なるので,  $f = u \cdot \beta$ ,  $\beta \cdot \varphi = \alpha$  となるような環の準同型  $\beta: B \rightarrow A\langle T \rangle$  が一意に存在する. このとき,  $u \cdot \beta \cdot \varphi = g \cdot \varphi$ .  $B$  は  $C$  の上に

étale なること,  $u \cdot \beta = g$ . 二つて,  $\Omega_{A(T)/W_n, [1]}^i = \Omega_{A/W_n}^i \otimes_A A(T) \oplus dT \wedge (\Omega_{A/W_n}^{i-1} \otimes_A A(T))$ ,  
 $d^i(T^{[n]} \omega_i + T^{[n]} dT \wedge \eta_{i-1}) = (T^{[n-1]} dT \wedge \omega_i + T^{[n]} d\omega_i) - T^{[n]} dT \wedge d\eta_{i-1}$ ,  $\omega_i$ ,  
 $\eta_{i-1}$  はそれぞれ  $\Omega_{A/W_n}^i, \Omega_{A/W_n}^{i-1}$  の元,  $\gamma$  LZ  $A$  加群の complex  $\Omega_{A(T)/W_n, [1]}^i$  を得る.  
 さらに,  $u^*, v^*: \Omega_{A(T)/W_n, [1]}^i \rightarrow \Omega_{A/W_n}^i$  をそれぞれ  $u, v$  による誘導される complex の  
 準同型とし, また,  $K(a + dT \wedge b) = \int_0^1 b(t) dt$  (ie  $K(T^{[n]} dT \wedge \eta_{i-1}) = p^{[n+1]} \eta_{i-1}$ )  
 により, 準同型  $K: \Omega_{A(T)/W_n, [1]}^i \rightarrow \Omega_{A/W_n}^{i-1}$  を定義すれば,  $v^* - u^* = Kd + dK$  と  
 なる. LZ かつ,  $g^* - f^* = (Kd + dK) \cdot \beta^*$ . 二つから結論を得る. (Katz による  
 証明).

remark 2.2  $\{T^{[0]}=1, T^{[1]}, T^{[2]}, \dots\}$  を基底とする free  $A$ -module  $A(T)$  の上  
 に,  $T^{[n]} T^{[m]} = \frac{(n+m)!}{n!m!} T^{[n+m]}$  により, 乗法を定義すれば,  $A(T)$  は  $A$  代数となる.  
 このとき,  $\gamma_m(T^{[1]}) = T^{[m]}$  により,  $A(T)$  の augmentation ideal  $\bigoplus_{n \geq 1} A \cdot T^{[n]}$  の  
 上の divided powers  $\gamma = (\gamma_m)_{m \geq 0}$  を定義される. PD- $A$  代数  $A(T)$  を  $T$  を  
 不定元とする polynomial  $A$ -algebra with divided powers. または, PD-  
 polynomial  $A$ -algebra とよぶ.

次に,  $X$  を smooth  $k$ -scheme とする. このとき, 定理 2.1. から, 同型  
 $H^i(X/W_n) \cong H_{\text{DR}}^i(U_n/W_n) = H^i(\Omega_{U_n/W_n}^i)$ ,  $U$  は  $X$  の affine open,  $U_n$  は  $U$  の  
 $W_n$  の上への lifting, により,  $X$  の上の (Zariski 位相に対する)  $W_n$  加群の層  
 $H^i(X/W_n)$  が定義される. さらに,  $U$  を  $X$  の affine open,  $U'$  を  $U$  の  $W$  の  
 上への flat  $p$ -adically complete な lifting とする. このとき,  $U'_n = U' \otimes_W W_n$   
 とすれば, complex の exact sequence

$$0 \longrightarrow \Omega_{U'/W}^i \xrightarrow{p^n} \Omega_{U'/W}^i \longrightarrow \Omega_{U'_n/W_n}^i \longrightarrow 0$$

を得る。したがって,  $x \in \Sigma \Omega_{U_n/W_n}^i$  の section,  $x' \in x \rightarrow x$  とする  $\Omega_{U'/W}^i$  の section とすれば,  $dx' = p^*y'$  とする  $\Sigma \Omega_{U'/W}^{i+1}$  の section  $y'$  が存在する。 $y \in y'$  の  $\Omega_{U_n/W_n}^{i+1}$  における image とすれば, 対応  $x \rightarrow y$  による層の準同型  $d_U: H_{DR}^i(U_n/W_n) \rightarrow H_{DR}^{i+1}(U_n/W_n)$  が定義される。ここで,  $U''$  を  $U$  の  $W$  の上への flat p-adically complete lifting,  $f: U' \rightarrow U''$  を  $W$ -morphism とし,  $U_n'' = U'' \otimes_W W_n$  とすれば, commutative diagram

$$\begin{array}{ccc} H_{DR}^i(U_n'/W_n) & \xrightarrow{d_U} & H_{DR}^{i+1}(U_n'/W_n) \\ \uparrow f^* & & \uparrow f^* \\ H_{DR}^i(U_n''/W_n) & \xrightarrow{d_U} & H_{DR}^{i+1}(U_n''/W_n) \end{array}$$

を得る。これより, 層の準同型  $d: H^i(X/W_n) \rightarrow H^{i+1}(X/W_n)$  を得る。このとき, 明らかに,  $d^2 = 0$ 。これより,  $H^*(X/W_n)$  は  $X$  の上の graded differential  $W_n$ -algebra の層となる。

remark 23  $A$  を (可換) 環,  $B = \bigoplus_{i \geq 0} B^i$  を positively graded  $A$ -algebra, また,  $d = (d^i: B^i \rightarrow B^{i+1})_{i \geq 0}$  を  $A$  準同型の族とする。

(1)  $xy = (-1)^i yx$ ,  $x, y$  はそれぞれ  $B^i, B^j$  の元;

(2)  $x^2 = 0$ ,  $x$  は  $B^i$ ,  $i$  は奇数, の元;

(3)  $d^{i+1} \circ d^i = 0$ ;

(4)  $d^{i+1}(xy) = (d^i x)y + (-1)^i x dy$ ,  $x, y$  はそれぞれ  $B^i, B^j$  の元,

が成立するとき,  $(B, d)$  は graded differential  $A$ -algebra であるという。例としては,  $R$  を (commutative)  $A$ -algebra とすれば, de Rham complex  $\Omega_{R/A}$  は graded differential  $A$ -algebra.

次に,  $W_n(X)$  を  $X$  の上の長さ  $n$  の Witt vector の層,  $F \in W_n(X)$  の Frobenius endomorphism とする.  $X$  の  $W_n$  の上への smooth lifting  $X_n$  が存在すると仮定する. このとき,  $a = (a_0, \dots, a_{n-1}) \in W_n(X)$  の local section,  $\tilde{a}_0, \dots, \tilde{a}_{n-1}$  をそれぞれ  $a_0, \dots, a_{n-1}$  の  $X_n$  の上への lifting とすれば, 対応  $a \rightarrow \tilde{a}_0^{p^{n-1}} + p\tilde{a}_1^{p^{n-2}} + \dots + p^{n-1}\tilde{a}_{n-1}$  により, 環の層の準同型  $\tilde{\omega}_{n-1}: W_n(X) \rightarrow \mathcal{O}_{X_n}$  が定義される. このとき, 準同型の結合  $\tilde{\omega}_{n-1} \circ F: W_n(X) \rightarrow W_n(X) \rightarrow \mathcal{O}_{X_n}$  の image は differential  $d: \mathcal{O}_{X_n} \rightarrow \Omega_{X_n/W_n}^1$  の kernel に含まれる. したがって  $W_n$ -代数の層の準同型  $\theta_n: W_n(X) \rightarrow F_* H^0(X/W_n) \simeq F_* H_{\text{DR}}^0(X_n/W_n)$ ,  $F$  は  $W_n = W_n(\mathbb{k})$  の Frobenius endomorphism, を得る. 一般の場合,  $X$  の上の局所化と貼り合わせの議論により 準同型  $\theta_n: W_n(X) \rightarrow F_* H^0(X/W_n)$  が定義される. このとき,

#### 命題 2.4 $\theta_n$ は同型

graded differential  $W_n$ -algebra の層  $F_* H^*(X/W_n)$  を  $X$  の level  $n$  の de Rham-Witt complex とよび, これを  $W_n \Omega_X^*$  で表わす. 命題 2.4 から,  $W_n \Omega_X^0$  は  $W_n(X)$  に同視される. また,  $W_1 \Omega_X^*$  は de Rham complex  $\Omega_{X/\mathbb{k}}^*$  に他ならない.

命題 2.5 graded differential  $W_n$ -algebra  $W_n \Omega_X^*$  は  $W_n(X)$  により生成される. i.e. 任意の  $W_n \Omega_X^*$  の local section  $\omega$  は  $\sum a db_1 \wedge \dots \wedge db_r$ ,  $a, b_i$  は  $W_n \Omega^0 = W_n(X)$  の local section, の形で書ける.

したがって, restriction  $R: W_n(X) \rightarrow W_{n-1}(X)$  により, graded differential algebra の準同型  $R: W_n \Omega_X^* \rightarrow W_{n-1} \Omega_X^*$  が定義される.

graded differential algebra  $W\Omega_X = \varinjlim W_n\Omega_X$  を  $X$  の de Rham-Witt complex とよび、定義から、 $W\Omega_X$  は  $X$  の上の Witt vector の層  $W(X)$  に同一視できる。ここで、各 transition map  $R: W_n\Omega_X \rightarrow W_{n+1}\Omega_X$  は全射なので、自然な準同型  $W\Omega_X \rightarrow W_n\Omega_X$  もまた全射。

また、décalage  $V: W_n(X) \rightarrow W_{n+1}(X)$  による準同型  $V: W_n\Omega_X \rightarrow W_{n+1}\Omega_X$  が定義される。このとき、

- (1)  $xVy = V(FRx, y)$ ,  $x$  は  $W_n(X)$  の,  $y$  は  $W_{n+1}\Omega_X$  の local section;
- (2)  $V(xdy) = (Vx)dVy$ ,  $x$  は  $W_n\Omega_X$  の,  $y$  は  $W_n\Omega_X$  の local section;
- (3)  $(d\underline{x})Vy = V(\underline{x}^{p-1}d\underline{x}, y)$ ,  $x$  は  $\mathcal{O}_X$  の,  $y$  は  $W_{n+1}\Omega_X$  の local section,  $\underline{x}$  は  $x$  の  $W_n(X)$  における multiplicative representative.

が成立する。ここで、 $RV = VR$  なので、limit への移行による  $W\Omega_X$  の自己準同型  $V$  を得る。このとき、

- (1)'  $xVy = V(Fx, y)$ ,  $x$  は  $W(X)$  の,  $y$  は  $W\Omega_X$  の local section;
- (2)'  $V(xdy) = (Vx)dVy$ ,  $x$  は  $W\Omega_X$  の,  $y$  は  $W\Omega_X$  の local section;
- (3)'  $(d\underline{x})Vy = V(\underline{x}^{p-1}d\underline{x}, y)$ ,  $x$  は  $\mathcal{O}_X$  の,  $y$  は  $W\Omega_X$  の local section,  $\underline{x}$  は  $x$  の  $W(X)$  における multiplicative representative.

また、環の準同型  $RF = FR: W_n(X) \rightarrow W_{n+1}(X)$  による graded algebra の準同型  $F: W_n\Omega_X \rightarrow W_{n+1}\Omega_X$  が定義される。このとき、

- (4)  $FV = VF = p: W_n\Omega_X \rightarrow W_n\Omega_X$ ;
- (5)  $FdV = d: W_n\Omega_X \rightarrow W_n\Omega_X^{(1)}$ ;
- (6)  $dF = pFd: W_n\Omega_X \rightarrow W_{n+1}\Omega_X^{(1)}$ ;  $Vd = pdV: W_n\Omega_X \rightarrow W_{n+1}\Omega_X^{(1)}$ ;

(7)  $xV_y = V(F_{x,y})$ ,  $x$  は  $W_n\Omega_x^i$  の,  $y$  は  $W_{n-1}\Omega_x^i$  の local section;  
 さらに limit への移行によつて graded differential algebra  $W\Omega_x^i$  の自己  
 準同型  $F$  を得る. このとき

$$(4') FV = VF = p;$$

$$(5') FdV = d;$$

$$(6') dF = pFd; Vd = pdV;$$

(7')  $xV_y = V(F_{x,y})$ ,  $x$  は  $W\Omega_x^i$  の,  $y$  は  $W\Omega_x^i$  の local section,  
 が成立する. (特に, (5), (5') は重要な公式である)

次に,  $X$  を smooth  $k$ -scheme of finite type とする.  $(X/W_n)_{\text{cris}}$   
 を  $W_n$  に関する  $X$  の crystalline topos,  $\mathcal{O}_{X/W_n}$  を  $(X/W_n)_{\text{cris}}$  の structure  
 sheaf, また,  $X_{\text{zar}}$  を  $X$  の Zariski topos,  $u_{X/W_n}: (X/W_n)_{\text{cris}} \rightarrow X_{\text{zar}}$  を自然な  
 topos の morphism とする. このとき,  $D(X, W_n)$  における同型

$$(I) R u_{X/W_n*} \mathcal{O}_{X/W_n} \cong W_n \Omega_X^i$$

が存在する. したがって,  $D(W_n)$  における同型

$$(II) R\Gamma(X/W_n) = R\Gamma((X/W_n)_{\text{cris}}, \mathcal{O}_{X/W_n}) \cong R\Gamma(X, W_n \Omega_X^i),$$

さらに, cohomology 群の同型

$$(III) H^i(X/W_n)_{\text{cris}} \cong H^i(X, W_n \Omega_X^i)$$

を得る. さらに,  $k$  が  $X$  の上に proper なる, 各  $H^i(X, W_n \Omega_X^i)$  は  $W_n$ -module  
 of finite length である.  $D(W)$  における自然な準同型

$$(IV) R\Gamma(X, W\Omega_X^i) \rightarrow R \varinjlim R\Gamma(X, W_n \Omega_X^i)$$

は同型. したがって, cohomology 群の準同型

$$(V) H^*(X, W\Omega_X^i) \rightarrow \varinjlim H^*(X, W_n\Omega_X^i)$$

は同型. したがって, cohomology 群の同型

$$(VI) H^*(X/W)_{\text{cris}} = \varinjlim H^*(X/W_n)_{\text{cris}} \simeq H^*(X, W\Omega_X^i)$$

を得る

remark 26  $S = (S, \mathcal{J}, \gamma) \in \text{PD-scheme}$ ,  $X \in S\text{-scheme}$  とし,  $\gamma$  が  $X$  に拡張されると仮定する. このとき,  $\text{Cris}(X/S)$  の対象  $(U, T, \delta)$  に  $\Gamma(T, \mathcal{O}_T)$  を対応させることにより,  $\text{Cris}(X/S)$  の上の環の層  $\mathcal{O}_{X/S}$  が定義される.  $\mathcal{O}_{X/S} \in \text{site } \text{Cris}(X/S)$  の, または,  $\text{topos } (X/S)_{\text{cris}}$  の structure sheaf とする.

### 3. de Rham-Witt complex に伴う spectral sequence

$k$  を標数  $p > 0$  の perfect field,  $W = W(k)$  を  $k$  の上の Witt vector の環,  $K \in W$  の分体. また  $X \in \text{smooth proper } k\text{-scheme}$  とする. このとき, 次数  $i$  において  $p$ -F により,  $W\Omega_X^i$  の complex の自己準同型  $E$  が定義される. さらに,  $E$  から誘導される  $H^*(X/W)$  の自己準同型は crystalline cohomology の上の Frobenius endomorphism と一致する

さらに, decreasing filtration  $(W\Omega^{2i}: W\Omega^i \rightarrow W\Omega^{i+1} \rightarrow \dots)_{i \geq 0}$  により, spectral sequence

$$E_1^i = H^i(X, W\Omega_X^i) \Rightarrow H^*(X/W)_{\text{cris}}$$

(de Rham-Witt complex に伴う (the first spectral sequence))

を得る. 一方, increasing filtration  $(W\Omega^{2i}: 0 \rightarrow W\Omega^i \rightarrow \dots \rightarrow W\Omega^{i+1} \rightarrow Z\Omega^i \rightarrow 0)_{i \geq 0}$

によつて spectral sequence

$$E_2^i = H^i(X, H^j(W\Omega_X)) \Rightarrow H^*(X/W)_{\text{cris}}$$

(de Rham-Witt complexに伴う (the opposite spectral sequence))

を得る. ここで,  $R$  から誘導される準同型  $H^j(W_n\Omega_X) \rightarrow H^j(W_{n+1}\Omega_X)$  は全射.

したがつて, projective system  $(H^j(W_n\Omega_X))_{n \geq 0}$  は Mittag-Leffler 条件を満たす.

よつて,  $H^i(X, H^j(W\Omega_X)) = \varprojlim H^i(X, H^j(W_n\Omega_X))$

定理 3.1. (Illusie-Raynaud) (1) the first spectral sequence は torsion を除いて  $E_1$  で退化する. さらに,  $H^i(X, W\Omega_X) \otimes_w K$  は  $H^{(i)}(X/W)_{\text{cris}} \otimes_w K$  の part of slopes  $[i, i+1[$  に対応する. 特に,  $H^0(X, W(X)) \otimes_w K$  は  $H^0(X/W)_{\text{cris}} \otimes_w K$  の part of slopes  $[0, 1[$  に対応する.

(2) the opposite spectral sequence は torsion を除いて  $E_2$  で退化する. さらに,  $H^i(X, H^j(W\Omega_X)) \otimes_w K$  は  $H^{(i)}(X/W) \otimes_w K$  の part of slopes  $]j-1, j]$  に対応する.

remark 3.2 定理 3.1.(1) は Serre [1], Artin-Mazur [1], Bloch [4] の結果の一般化になっている.

remark 3.3.  $E = H^*(X/W)_{\text{cris}} \otimes_w K$  とすれば,  $E$  は linear operator  $F$  を持つ  $K$  の上の有限次元線型空間. このとき, 有理数  $\lambda = s/r$ ,  $(s, r) = 1$ , に対して  $E_\lambda = \{a \in E; F^r a = p^s a\}$  とおけば, 直和分解  $E = \bigoplus E_\lambda$  を得る.  $E_\lambda$  は  $E$  の part of slope  $\lambda$  とよぶ.

また, さらに,

定理 3.4 (Illusie-Raynaud) (1) the first spectral sequence is of finite length を除いて  $E_2$  で退化する.

(2) the opposite spectral sequence is of finite length を除いて  $E_3$  で退化する.

(3) the first spectral sequence が  $E_1$  で退化する  $\Leftrightarrow$  the opposite spectral sequence が  $E_2$  で退化する.

$$\text{したがって, } E_2^i = \text{Ker}(H^i(X, W\Omega_X^j) \rightarrow H^i(X, W\Omega_X^{j+1})) / \text{Im}(H^i(X, W\Omega_X^{j-1}) \rightarrow H^i(X, W\Omega_X^j))$$

は有限型  $W$  加群.  $E_2$  は  $E_\infty$  の good approximation であると言える.

以下, 定理 3.4 (1) の証明の概要を述べる.

$R$  を次数 0 で生成元  $F, V$  により, 次数 1 で生成元  $d$  により, 次の関係式により生成される graded  $W$ -algebra とする.

$$(1) F \cdot a = F(a) \cdot F, a \cdot V = V \cdot F(a), a \text{ は } W \text{ の元}; FV = VF = p;$$

$$(2) ad = da, a \text{ は } W \text{ の元}; d^2 = 0; FdV = d.$$

このとき,  $R = R^0 \oplus R^1$ ,  $R^0$  は Dieudonné-Cartier algebra,  $R^1$  は  $d$  により生成される  $R^0$  上の bimodule. また,  $H^i(X, W\Omega_X^j)$  は operator  $F, V, d$  により  $R$  上の graded module となる.

ここで,  $M$  を  $R^0$  加群とする.  $M$  が  $V$ -adic topology に対して complete で, 各  $n > 0$  に対して  $M/V^n(M)$  が of finite length となるとき,  $M$  は  $V$ -finite であるという. 例えは,  $H^i(X, W(X))$  は  $V$ -finite.

命題 3.5.  $M$  を  $V$ -finite  $R_0$ -module とする. このとき,

(1)  $M$  の  $V$ -torsion part は of finite length.

(2)  $M$  が  $V$ -torsion-free なる, 有限次元の smooth formal group  $G$  が存在して  $G$  の Cartier module は  $M$  に同型となる. さらに, このとき,  $M$  が free  $W$ -module of finite type  $\Leftrightarrow G$  が  $p$ -divisible. また,  $M$  が  $F$  のある中で  $0$  になる  $\Leftrightarrow G$  が unipotent.

また,  $G$  の formal group の exact sequence

$$0 \longrightarrow G' \longrightarrow G \longrightarrow G'' \longrightarrow 0,$$

$G'$  は  $G$  の maximal  $p$ -divisible subgroup,  $G''$  は unipotent. に対応して,  $R_0$  加群の exact sequence

$$0 \longrightarrow M' \longrightarrow M \longrightarrow M'' \longrightarrow 0,$$

$M'$  は free  $W$ -module,  $M''$  は  $F$  のある中で  $0$  になる, を得る.

これから,

命題 3.6  $M$  を  $V$ -finite  $R^0$ -module とする. このとき,  $M$  は successive quotient が 次のいずれかの型の  $V$ -finite module であるような組成列を持つ. (I) of finite length; (II)  $W$  の上に free of finite type; (III)  $\hat{G}_a$  with  $F=0$ .

次に,  $M^* = \bigoplus M^i$  を graded  $R^0$ -module とする. このとき,  $\text{Fil}^n(M^*) = V^n(M^*) + dV^n(M^{*-1})$  とすれば,  $\text{Fil}^n(M^*) = \bigoplus \text{Fil}^n(M^i)$  は  $M^*$  の graded  $W$ -submodule である.

$$F(\text{Fil}^n(M^*)) \subset \text{Fil}^{n-1}(M^*);$$

$$V(\text{Fil}^n(M^*)) \subset \text{Fil}^{n+1}(M^*);$$

$$d(\text{Fil}^n(M^*)) \subset \text{Fil}^n(M^*).$$

$\text{Fil}^n(M^i)$  は  $M^i$  の decreasing filtration を与える. 例えは,  $M^i = H^i(X, W\Omega_X^i)$  とすれば,  $\text{Fil}^n(M^i) = \text{Ker}(H^i(X, W\Omega_X^i) \rightarrow H^i(X, W_n\Omega_X^i))$ .

さらに,  $Z^i = \text{Ker}(M^i \rightarrow M^{i+1})$ ,  $B^i = \text{Im}(M^{i-1} \rightarrow M^i)$  とおく. このとき,

(1)  $Z^i$  は  $F$  で stable であるが,  $V$  で stable ではない. また,  $\forall a \in Z^i$  の元なる,  $a$  もまた  $Z^i$  の元. したがって,  $Z^i$  は  $M^i$  の  $V$ -torsion part を含む. さらに,  $V^{-\infty}(Z^i) = \{a \in M^i; \text{任意の } n > 0 \text{ に対して } V^n a \text{ は } Z^i \text{ の元となる}\}$  とおけば,  $V^{-\infty}(Z^i)$  は  $V$  で stable な最大の  $Z^i$  の部分  $W$  加群.

(2)  $B^i$  は  $V$  で stable であるが,  $F$  で stable ではない.  $F^\infty(B^i) = \bigcup_{n \geq 0} F^n(B^i)$  とおけば,  $F^\infty(B^i)$  は  $F$  で stable で  $B^i$  を含む最小の  $M^i$  の部分  $W$  加群.

このとき,

$$0 \subset B^i \subset F^\infty(B^i) \subset V^{-\infty}(Z^i) \subset Z^i \subset M^i$$

となる.

次に,  $M^i$  を graded  $R$ -module とする.  $M^i$  が  $\text{Fil}^n$ -topology に対して complete で, 各  $n, i$  に対して  $M^i / \text{Fil}^n(M^i)$  が of finite length となるとき,  $M^i$  は profinite であるという.

定理 3.7. (profinite module の構造)  $M^i$  を下に有界な profinite graded  $R$ -module とする. このとき,

(1)  $F^\infty(B^i) / B^i$ ,  $Z^i / V^{-\infty}(Z^i)$  は of finite length.

(2)  $F^\infty(B^i)$  は  $M^i$  で closed で,  $V$  のある中で  $0$  になる. また,  $\text{Fil}^n(M^i)$  による  $F^\infty(B^i)$  の上に誘導される位相は  $dV^{n-1}(M^i)$  による定義される位相と一致する. さらに,  $M^i / F^\infty(B^i)$  は  $V$ -finite.

(3)  $M^i/V^{\infty}(Z^i)$  は  $V$ -torsion-free  $V$ -finite module であり、 $F$  のある  $n$  で  $0$  になる。

さらに、

命題 3.8.  $M^*$  を有界な profinite graded  $R$ -module とする。このとき、 $M^*$  は successive quotient が次のいずれかの型の profinite module であるような組成列を持つ。

(I) (one degree) (a) of finite length; (b)  $W$  の上には free of finite type; (c)  $\hat{G}_a$  with  $F=0$ .

(II) (involve two degrees)  $k[[T]] \xrightarrow{d} k[[T]]$ , on the left  $F=0$ ,  $V(T^n)=T^{n+1}$ ; on the right  $V=0$ ,  $F(1)=0$ ,  $F(T^n)=T^{n-1}$  ( $n>0$ ), であり (a)  $d$  は全射で長さ  $l$  の kernel を持つ, i.e.  $d(1)=\dots=d(T^{l-1})=0$ ,  $d(T^{l+n})=T^n$ ; (b)  $d$  は単射で長さ  $l$  の cokernel を持つ, i.e.  $d(T^n)=T^{n+l}$ .

次に問題になるのは cohomology 群  $H^i(M^*)=Z^i/B^i$  の有限性である。これについて、

補題 3.9.  $M^*$  を有界な profinite graded  $R$ -module とする。このとき、次の条件は同値。

- (a) 各  $i$  に対して  $V^{\infty}(Z^i)/F^{\infty}(B^i)$  は有限型  $W$  加群;
- (b) 各  $i$  に対して  $H^i(M^*)=Z^i/B^i$  は有限型  $W$  加群;
- (c)  $R$  加群  $M^*$  の組成列に 命題 3.8 の (Ic) の型の  $R$  加群は現れない。

graded  $R$ -module  $M^*$  が有界で profinite で 補題 3.9 の同値な条件を満たすとき、 $M^*$  は coherent であるという。

定理 3.10. graded  $R$ -module  $H^j(X, W\Omega_x)$  は coherent.

これから、各  $E_1^j$  は有限型  $W$  加群。ここで、the first spectral sequence は torsion を除いて  $E_1$  で退化するので、finite length を除いて  $E_2$  で退化することがわかる。

#### 4. applications

定理 3.4. から、the first spectral sequence の  $E_1$ -term について幾つかの結果が得られる。

命題 4.1.  $H^0(X, W\Omega_x^i)$  は free  $W$ -module (of finite type)

命題 4.2 (Torsten Ekedahl)  $H^1(X, W\Omega_x^i)$  は有限型  $W$  加群。

また、 $N = \dim X$  とすれば、 $F$  は  $W\Omega_x^N$  の上で双射。したがって、 $H^j(X, W\Omega_x^N)$  の上で双射。これから、

命題 4.3.  $H^j(X, W\Omega_x^N)$  は有限型  $W$  加群。

したがって、特に、

定理 4.4. (Nygaard)  $X$  を  $k$  の上の complete smooth surface とする。このとき、the first spectral sequence は  $E_2$  で退化する。さらに、次の条件は同値

- (a) the first spectral sequence は  $E_1$  で退化する;
- (b)  $d: H^2(X, W\Omega_x^0) \rightarrow H^2(X, W\Omega_x^1)$  は零射;
- (c)  $H^2(X, W\Omega_x^0)$  は有限型  $W$  加群;

(d)  $X$  の formal Brauer group  $\widehat{\text{Br}}(X)$  は  $p$ -divisible.

Supersingular K3 surface は定理 4.4. の同値な条件を満たさない例を与える (Nygaard [8], [9]).

## references

1. M. Artin - B. Mazur, Formal groups arising from algebraic varieties, Ann. Sci. Ec. Norm. Sup 10 (1977)
2. P. Berthelot, Cohomologie cristalline des schémas de caractéristique  $p > 0$ , LN 407, Springer.
3. P. Berthelot - A. Ogus, Notes on Crystalline cohomology, Math. Notes 21, Princeton.
4. S. Bloch, Algebraic K-theory and crystalline cohomology, Publ. Math. IHES 47 (1978)
5. A. Grothendieck, Crystals and the de Rham cohomology of schemes, in <Dix exposés sur la cohomologie des schémas> North Holland.
6. L. Illusie, Complexe de de Rham-Witt et cohomology cristalline, Ann. Sci. Ec. Norm. Sup 12 (1979)
7. P. Monsky, Formal cohomology I (with G. Washnitzer) Ann of Math 88 (1968), II ibid 88 (1968), III ibid 93 (1971).

8. N. Nygaard, Closedness of regular 1-forms on algebraic surfaces. *Ann. Sci. Ec. Norm. Sup.* 12 (1979)
9. N. Nygaard, A  $p$ -adic proof of the non-existence of vector fields on K3 surfaces. *Ann. of Math* 110 (1979)
10. A. Ogus, Cohomology of the infinitesimal site. *Ann. Sci. Ec. Norm. Sup.* 8 (1975)
11. J-P. Serre, Sur la topologie des variétés algébriques en caractéristique  $p$ . *Symp. Intern. de Topologia Algebraica*, Mexico (1958)
12. J-P. Serre, Quelques propriétés des variétés abeliennes en caractéristique  $p$ . *Amer. Journ. of Math.* 80 (1958)
13. M. Raynaud, Études de la torsion dans la première suite spectrale (preprint)
14. L. Illusie - M. Raynaud, Complexe de de Rham-Witt et cohomologie cristalline (preprint) in *Seminaire de Géométrie Algébrique d'Orsay* 1979/80.